

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

滝沢市は岩手県中央部、県庁所在地・盛岡市の西部に位置し、基幹産業は農業と畜産。加えて近年は果樹・野菜・酪農も盛んである。また盛岡市のベッドタウンとしてニュータウン開発が相次いだ結果、人口は堅調に増え続け、99年11月に日本一人口の多い村となり、翌00年2月に人口が5万人を突破。14年1月に滝沢市へ単独市制施行した。現在は、人口はほぼ横這いで推移して

いるものの、世帯数は依然として増加傾向にあり、また市内には大学・短大合わせて3校が立地していることもあって、高齢化率は17年10月現在で23・3%と県内平均の31・9%を大きく下回り、県内で最も低い。現在、滝沢市では2つの大きな事業が竣工、または進行

している。1つめは、滝沢市交流拠点複合施設(ビッグライフ滝沢)の竣工である。交流複合施設を中核に市になる前の滝沢村は、人口は要件を満たしていたものの、商業地や居住地が市内各所に分散されていて、核となる市街地の集積がないことが市昇格への障害の一つとなっていた。このため「滝沢村交流拠点複合施設」の役割と方向性の検討を開始した。住民のコミュニティ支援と図書館と公民館機能などが一体とな

り、億5千万円をかけた17年4月に全館オープンした。屋内は①コミュニティセンター(ホール、会議室、市民活動支援センターなど)、②図書館、③たきざわキッチン(産直、物販、レストランなど)の3つのゾーンに大きく分かれ、屋外には消防屯所、駐車場などが配置され、防災拠点としての機能も備えている。図書館やアンテナショップには、地元だけ

った交流機能を有する複合施設を整備し、市施行を見据えた中核施設として建設に着手することとした。施設は市役所向かいに建設され、コンセプトである「みんなでつくるふれあいの大屋根」から愛称を「ビッグライフ滝沢」とし、総工費45

盛岡市に隠れがちな存在から脱却へ 都市基盤整備で2つの事業

盛岡市に隠れがちな存在から脱却へ

でなく近隣住民や観光客も来場し、17年11月にはプレ開業から1年足らずで、年間目標の15万人を大幅に上回る、来館者50万人を達成するなど幅広い年代が訪れ、市の新しい顔として上々の滑り出しをみせている。

供用開始は19年3月

2つめは、滝沢中央スマートインターチェンジ(ICC)の整備である。滝沢市は10年に、既存の滝沢ICCと盛岡ICCの中間地点にあり、市中央部の人口集中地域に接し、市

役所周辺など中心市街地からのアクセスに優れる高層数平地区にスマートICCの設置を要望していた。スマートICCは19年3月に供用開始予定で、これによって①居住者・就業者の利便性向上、②交通分散による渋滞緩和、③地域経済活動の基盤整備、④搬送時間短縮による救急医療支援などが見込まれる。

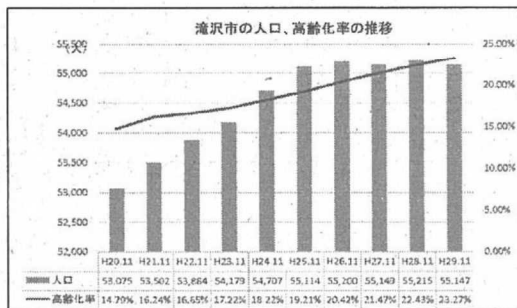
滝沢市は、盛岡市のベッドタウンとしてその陰に隠れがちな存在だが、今後はビッグライフ滝沢の一層の充実やスマートインターチェンジの整備などに伴い、交流人口はもとより定住人口の増加も見込まれる。さらなる発展を期待したい。

(日本不動産研究所盛岡支所 不動産鑑定士・昆野吉隆)

岩手県滝沢市・ベッドタウンの村から市に昇格



④交流拠点施設「ビッグライフ滝沢」
⑤整備中の滝沢中央スマートICC



(滝沢市役所市民環境部市民課データを基に作成)